

不妊治療にかかるホームページ 案  
＜用語や見出し等は、必要に応じて、サイト内リンクを貼ります。＞

## 1 不妊治療を始める時期（検討する時期）

- 一般に「不妊」とは、妊娠を望む健康な男女が避妊をせずに性交をしているにもかかわらず、一定期間妊娠しないものをいいます。  
日本産科婦人科学会では、この「一定期間」について「1年が一般的」としています。
- ただし、この「1年」というのは年齢や、それぞれの方のお体の状態などを考慮しないで、あくまで一般的には定義しているものです。  
ご夫婦（カップル）の年齢が20代なのか、30代、40代なのか、あるいは、月経不順などの不調があるか、過去に婦人科等の既往歴があるかなどでも異なると考えられます。
- 妊娠、出産について体調やお体の状況、不妊への不安がある場合は、まずは、婦人科を受診して、不妊検査の必要性の有無から相談してみましょう。ご夫婦、カップルで最初の相談、受診ができることが望ましいです。男女ともに、まずは婦人科で受診できますし、必要に応じて泌尿器科（男性受診）の紹介などにつながることもあります。

※女性の月経不順や生理痛などの不調は、10代から始まることもあり、将来にわたり、不妊につながる婦人科疾患等に関係する可能性もあります。

不妊（妊娠・出産）を具体的に考える前から、「かかりつけ婦人科医」を持つ、女性特有の体の機能や変化について、気軽に受診や相談をする習慣も大切です。

※ 神奈川県不妊・不育専門相談センターでは、不妊や不育についての疑問や不安について、専門の医師や助産師による相談をお受けしています。気軽にご相談ください。  
～リンク

## 2 医療機関について

- 不妊検査や治療を行う医療機関は、神奈川県内及び近郊には比較的多くあります。検査、治療を受ける方が納得して、安心し、信頼して通院できる医療機関を選ぶことが重要です。

どのような情報を信用するかというのは難しいことですが、まずは医療機関ホームページなどで治療内容や方針などを確認し、問い合わせをしたり、一度受診をして説明を聞いたりして、通院先を決めましょう。

また、医療機関を変えること（転院）も可能です。転院にも、メリット、デメリットがありますが、その時の必要性に応じてよく考えてみてください。

行政（県など）では、医療機関を紹介したり、特定の医療機関をお勧めしたりすることはできません。

次のサイトで、「診療科目」や「所在地」、「最寄り駅」などで、医療機関の一覧を検索することができます。通院のしやすさも、一つの大切な点と言われます。よろしければ、参考にしてみてください。

[「かながわ 医療機関情報検索サービス」](#)（[県医療課 HP にリンク](#)）

医療機関を診療内容や規模等で分けると、大きく3つのタイプに分かれると言えます。

### ● 産婦人科クリニック

（クリニックによってお産を行うところ、行わないところがあります。）

- ・ 数が多く、一般に、身近で通院できる医療機関を探しやすいです。
- ・ 不妊検査や、タイミング法、人工授精（一般不妊治療）までの診療は行っても、体外授精（生殖補助医療）は行っていない場合もあります。
- ・ もちろん、産科や婦人科の診療と併せて、生殖補助医療も含めた不妊治療に積極的に取り組んでいる施設もあります。

まずは、ご自身にとって、必要な治療を考えた上で、医療機関の治療内容を事前に調べたり、問い合わせをしたりして確認しましょう。

### ● 不妊治療専門クリニック

- ・ 不妊検査から一般不妊治療、体外授精（生殖補助医療）まで行う医療機関です。不妊治療を中心とすることで、施設や設備、医師等の体制を特化したり、待合室で不妊治療を受ける方が過ごしやすいなどの配慮をしていたりする場合もあります。
- ・ なお、不妊治療専門クリニックであっても、その規模や体制、治療方針などには、さまざまな違いがあります。よく、確認しましょう。保険診療の扱いや、先進医療の併用方針など費用に関わる面についても、実際に治療に通う前に確認することをお勧めします。

### ● 大学病院・総合病院等

- ・ 生殖補助医療を行っている大学病院等であれば、出産やその他の疾患と連携した診療を併せて受けられる場合が多いと考えられます。患者受け入れに条件があるか、通院、予約、主治医の体制がどうなっているかなども、クリニックとは異なる場合もありますので、他の医療機関も同様ですが、事前によく確認してください。

### 3 不妊治療について

※以下の検査や治療内容は、一般的に行われているとされる内容です。

#### (1) 不妊治療の検査

○ 一般に、まず不妊に明らかな原因（疾患）があるかを検査し、治療可能な原因疾患があれば、その治療として手術や薬物療法を行ったり、疾患に応じた今後の不妊治療の方針（治療方法の選択）を検討したりします。

- ・ 診察      ・ 血液検査（ホルモン検査等）      ・（子宮等の）超音波検査
- ・ 卵管の検査      ・ 精液検査（男性）      など

不妊の原因は、男女それぞれ約半々とされています。男女ともに検査を受けることが必要です。

#### ● 男性側の原因（例）

精管閉塞、先天性の形態異常、逆行性射精、造精機能障害など。

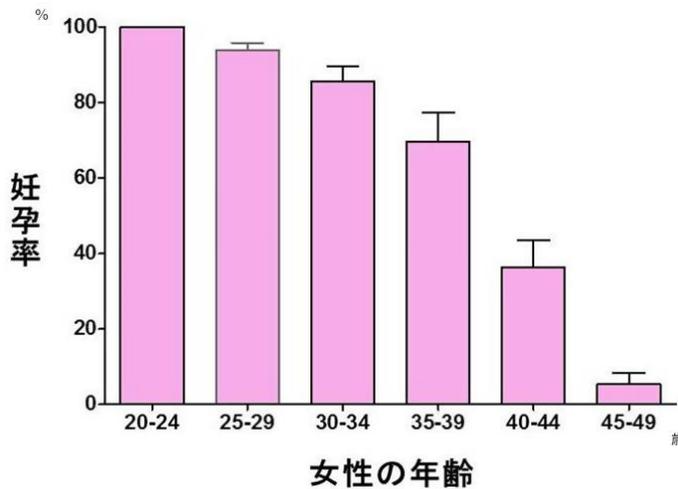
#### ● 女性側の原因（例）

子宮奇形や、感染症による卵管の癒着、子宮内膜症による癒着、ホルモンの異常による排卵障害や無月経など。

○ 検査を行っても、明らかな不妊の原因（所見）が確認できないこともあります。その場合も、不妊治療による妊娠出産を望む場合は、次のステップを検討します。

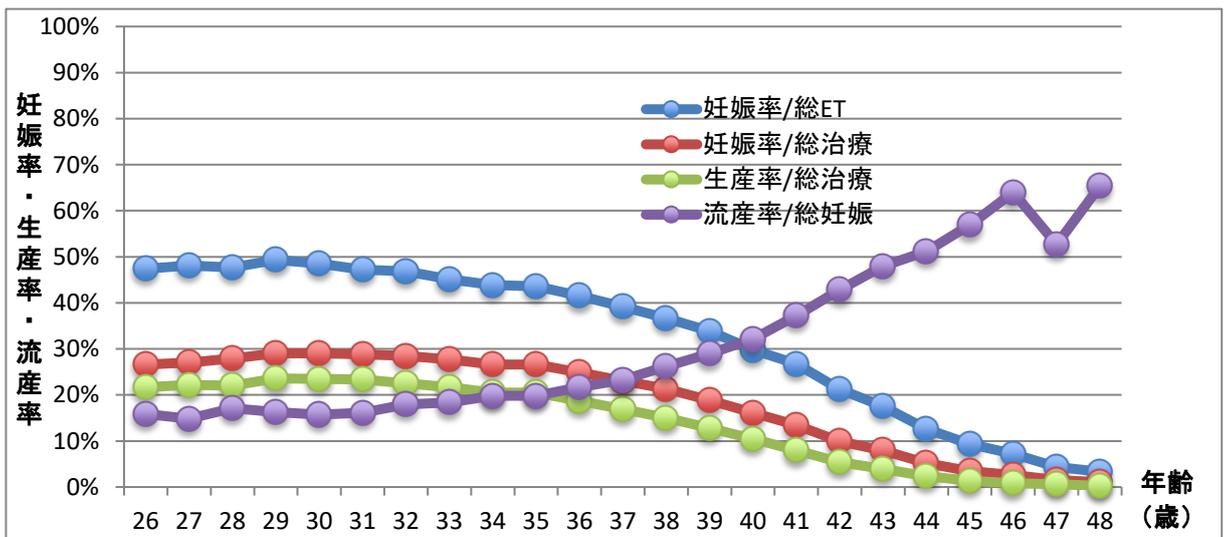
### ○ 女性の年齢と妊娠

女性が妊娠しやすいのは20代から30代前半で、その後、妊孕率は年齢とともに低下していきます。



妊孕率は、女性 1,000 人あたりの出生数（17～20 世紀のアメリカ、ヨーロッパ、イランなど 10 ヶ所のデータ：Henrv. L. (1961) . Some data on natural fertility. Eugenics Quarterly. 8(2) . 81-91.）を示し、20-24 歳を 100% として計算した。年齢の増加に伴い（特に 35 歳以降）妊孕率の低下が認められる。データは平均±標準偏差で示した。（2016 年 12 月 12 日一部内容を改訂）  
【一般社団法人 日本生殖医学界 HP から引用】

これは、体外（顕微）授精による妊娠についても同じです。グラフの青い線が、総胚移植（ET）数から計算した妊娠率ですが、生殖補助医療により培養した胚を移植しても、妊孕率は年齢とともに低下しています。



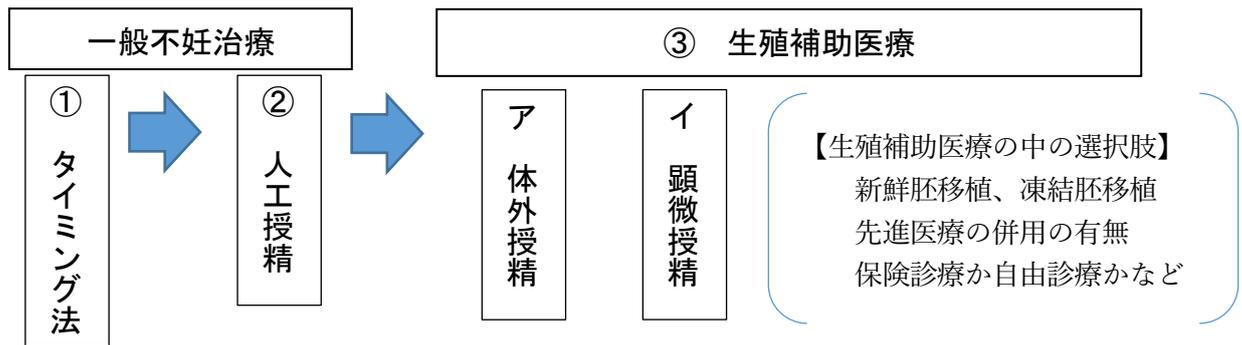
【公益社団法人 日本産科婦人科学会 HP (ART データブック) から引用】

女性の体では、卵子の質や量、卵巣機能は、年齢とともに低下します。

女性が妊娠・出産の時期を、仕事やプライベートな生活に応じて、ご自身の考えや状況により判断することは当然のことですが、ライフプランを考える上では、年齢と妊娠の関係は、知っておきたいことです。

## (2) 不妊治療のステップ

- 不妊治療は次のステップに沿って進めることが一般的とされています。



(半年 (6回) ~1年 (12回) 程度) ※一般的なめやす

- 女性の体の中で授精が行われる「①タイミング法」と「②人工授精」は、「一般不妊治療」と呼ばれています。

### ① タイミング法

女性の排卵周期に合わせて、排卵日の当日や前日の性交により妊娠の確率を上げるものです。

医療機関に通院してタイミング法を行う場合は、排卵日を推測するために、超音波検査や血液検査等でエストラゲンなどの値を調べることを行います。治療内容により通院回数なども変わりますので、医療機関の説明を聞きましょう。

また、次のステップまでの間に、排卵誘発剤を用いたタイミング法を行うこともあります。

### ② 人工授精

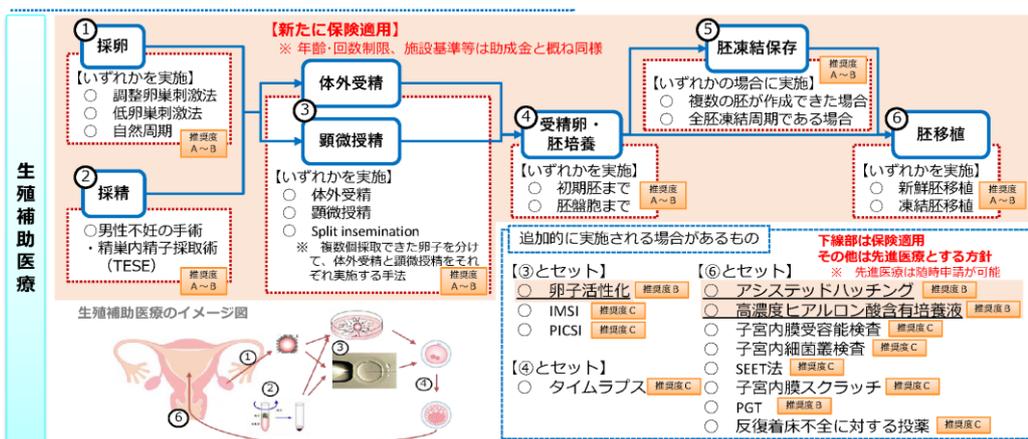
排卵日に合わせて、濃縮などの処置を行った精液を子宮内に注入し、精子が卵子に到達しやすくします。

### ③ 体外（顕微）授精（生殖補助医療）

一般に、排卵誘発剤を使って採卵の確実性を高めた上で、卵子を体外に取り出し（採卵）、精子と授精させて、胚に培養した上で、子宮に移植します。

採卵誘発剤の使用や、授精に際する精子選択、胚の培養、胚のグレードの診断、移植などでも、それぞれの医療機関によって、方針やオプションな治療法の組み合わせなどに特色があることもあります。専門的な医療技術（医師等の配置）や設備等が必要であり、体外授精等を行う医療機関（実施施設）は、日本産科婦人科学会に登録申請を行い、認定を受けて治療を行っています。

### 体外授精（生殖補助医療）の流れ



【「不妊治療に関する支援について」厚生労働省資料から引用】

### (3) その他

- 検査で原因が明らかになって、タイミング法や人工授精での妊娠が望めない場合、年齢やその他の状況などで、ステップに沿ってではなく、最初に、生殖補助医療から検討する場合があります。
- ご夫婦（カップル）のお気持ちや状況に応じて、生殖補助医療から、タイミング法などへのステップダウンをする場合があります。
- 不妊治療の進め方は、お一人お一人に寄り添ったものであることが大切です。主治医とよく相談しながら、納得して治療を受けましょう。

※ 神奈川県不妊・不育専門相談センターでも、それぞれの方の状況に応じて、専門の医師や助産師による相談をお受けしています。気軽にご相談ください。～リンク

### 4 保険診療について（健康保険の適用範囲等）

- 令和4年4月から、人工授精、体外（顕微）授精に健康保険が適用されました。なお、体外（顕微）授精については、健康保険の適用に要件があります。（タイミング法、人工授精には要件はありません。）

#### 【年齢要件】

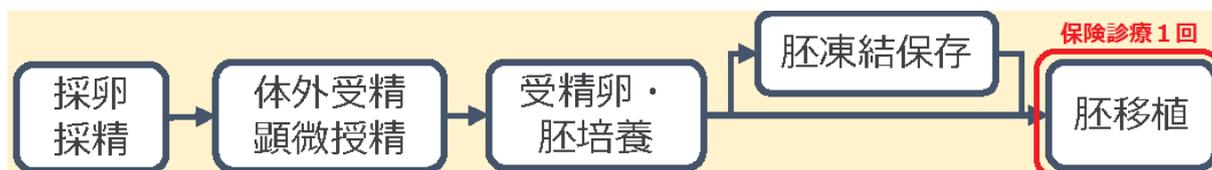
- ・ 治療開始時の助成の年齢が 43 歳未満  
（治療開始後、43 歳になった場合も、一連の治療は保険診療の対象となります。治療開始日は、医療機関（主治医）にご確認ください。）

#### 【回数要件】

- 上限回数は1子ごとにカウントされ、出産によりリセットされます。

初めての治療開始時の助成の年齢	40 歳未満	通算 6 回まで
	40 歳以上 43 歳未満	通算 3 回まで

- 「1回」とは、「胚移植」の回数を数えます。



- 例 1) 採卵（手術）をしたが卵子が得られず、再度、採卵を行い、胚移植にいたった場合は、保険診療の回数としては1回です。
- 例 2) 1回の採卵で2個の卵子を得て、2個の胚ができ、1度胚移植（1回目）したが妊娠・出産にいたらず、2個目の凍結保管していた胚を移植した場合は、保険診療としては2回です。

## ○ 保険診療の負担額（目安）

### ① タイミング法、②人工授精

健康保険適用により、治療費の自己負担は 1周期あたりで、数千円から1万円程度とされています。排卵周期を調べる検査内容等により金額が変わります。

### ③ 体外（顕微）授精

採卵時の誘発剤の使用方法や、新鮮胚移植か凍結胚 移植かなどにより異なりますが、一連の治療での自己負担額が15万円程度とされています。

また、医療保険の高額療養費に該当する場合、月々の負担額は、「暦の上で、1か月にいくらかかったか」を基に計算されます。治療のタイミングにより、負担額が変わる場合もあります。

また、**先進医療**を利用するかによっても、負担額は変わります。

#### <参考> 自由診療について

体外（顕微）授精の年齢、回数要件等の上限を超えて治療する場合や、PGT-A（着床前胚異数性検査）などの保険適用外（先進医療以外）の治療を併用する場合、その他の保険診療と異なる治療を希望する場合は、自由診療となります。

自由診療の治療費の計算は、医療機関によって異なり、保険診療の費用の10割負担額（全額自己負担）や、これにオプションの費用を加えた額とは異なる場合があります。治療開始前に、十分に治療内容と費用の目安を確認しましょう。

## 5 先進医療について

○ 「先進医療」とは、保険診療としては認められていない先進的な医療技術等について、安全性・有効性等を確保するための施設基準等を満たした施設での、保険診療と保険外診療との併用※を認める制度です。

この治療結果について、国は医療機関から報告を受け、将来的な保険導入に向けた評価を行うとされています。

先進医療分の治療費は、10割が患者負担となります。

※ 「先進医療」以外では、保険診療と「保険適用外の治療」を併用することは、「混合診療」として認められず、一連の治療全てが保険適用されず、全額自己負担（自由診療）になります。

○ 不妊治療に関連する先進医療技術

（詳しくは、[厚生労働省資料](#)（リンク）をご覧ください。）（令和5年8月時点）

◇ヒアルロン酸を用いた生理学的精子選択術（いわゆる、PICSI法）

◇強拡大顕微鏡による形態良好精子の選別法（いわゆる、IMSI法）

◇タイムラプス撮像法による授精卵・胚培養

- ◇子宮内細菌叢検査（いわゆる、EMMA/ALICE 法）
- ◇子宮内膜受容能検査（いわゆる、ERA 法）
- ◇子宮内膜擦過術（いわゆる、内膜スクラッチ法）
- ◇子宮内フローラ検査
- ◇子宮内膜受容能検査（いわゆる、ERPeak）法
  
- ◇子宮内膜刺激法（いわゆる、SEET 法）
- ◇二段階胚移植法
  
- ◇不妊症患者に対するタクロリムス投与療法

## 6 県内で不妊治療助成を行っている市町村（HP のリンク掲載）

※市町村に確認して、実施市町村とリンクを掲載（現状 6 市町程度）

- 「不妊に悩む方への特定治療支援事業」＜体外授精等の保険適用以前の事業＞は、終了しました。（リンク）

## 7 リンク集 ＜他にも公的 HP 等があれば、追加します。＞

- 神奈川県不妊・不育専門相談センター  
「これからの治療の選択」など、それぞれの方の状況によって変わる悩みや疑問について、専門の医師や助産師、臨床心理士が相談に対応します。
  
- 厚生労働省 HP ～ 不妊治療の保険適用
  
- 厚生労働省 HP ～ 不妊治療と仕事の両立支援
  
- 産科婦人科学会 ～ 不妊症
  
- 日本生殖医学会 ～ 生殖医療 Q&A
  
- NPO 法人 Fine ～ 不妊支援・不妊体験をもつセルフ・サポートグループ